



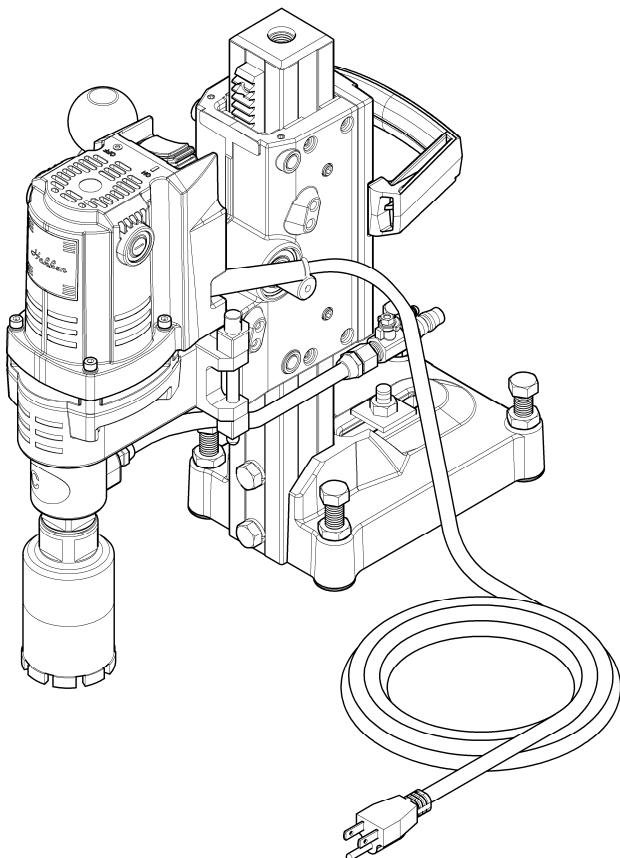
狭隘用ダイヤモンドコアドリル

S P J P - 0 6 3 C

取扱説明書



本製品は、水を使用する工具です。
かならず接地(アース)してください。



このたびはお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前に、この「取扱説明書」すべてをよくお読みのうえ、指示にしたがって正しく安全に使用してください。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

CONSEC CORPORATION

接地(アース)について

本製品は給水式ダイヤモンドコアドリルです。JIS規格により感電防止のために接地(アース)する必要があります。さらに内部構造は二重絶縁または強化絶縁構造になっており、より感電しにくくなっています。 (参照 JIS C 9029-2-6)

騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所などの周囲に迷惑をかけないよう規制値以下で使用するため、状況に応じて遮音壁を設けてください。

注意文の「▲警告」・「△注意」・「ポイント」の意味について

ご使用上の注意事項は「▲警告」・「△注意」と「ポイント」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

▲警告 : 誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

△注意 : 誤った取扱いをした時に、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

ポイント : 製品の据付け、使用方法、メンテナンスに関する重要な事項。

なお、「△注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

本文中では、「ダイヤモンドコアドリル」のことを「コアドリル」、「ダイヤモンドコアピット」のことを「コアピット」と記述しています。

目 次

1. 警告および注意	
【1】電動工具の安全上のご注意	2
【2】コアドリルの使用上のご注意	4
2. 各部の名称	7
3. 仕様 (ドリルヘッド)	8
4. 標準付属品	8
5. 用途	8
6. オプション品 (別売)	9
7. 使用時全体図および仕様	11
8. 使用方法	
【1】アンカー施工	12
【2】コアドリルの設置	13
【3】コアピットの取付け	14
【4】給水の準備	15
【5】穴あけ作業	16
【6】穴あけ作業終了	17
9. 作業中のトラブルと対策	
【1】作業中のトラブルと対策方法	18
【2】コアピットがロックした場合の解決方法例	19
【3】コアピットにセリが生じた場合の解決方法例	19
10. 旋回ライナの組換え方法 (開閉方向の変更)	20
11. コア抜きワイヤーの使用方法	21
12. 点検・保守・修理	
【1】作業前点検	22
【2】定期点検	22
【3】保守	23
【4】修理について	23
13. 製品の保管	24

1. 警告および注意

ご使用前に、この「警告および注意」すべてをよくお読みのうえ、指示にしたがって正しく使用してください。

火災・感電・けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「電動工具の安全上のご注意」「コアドリルの使用上のご注意」を必ず守ってください。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

【1】電動工具の安全上のご注意

▲ 警 告

1. 指定された用途以外には使用しないでください。

2. 作業者以外は施工場所へ近づけないでください。

作業者以外、電動工具やケーブルに触れさせないでください。

3. 施工場所の周囲状況も考慮してください。

電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。

施工場所は十分明るくしてください。

可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

ちらかった施工場所は、事故の原因となります。

4. 安全保護具を使用してください。

作業時は、保護めがねを着用してください。

滑り止めのついたゴム手袋と履物を着用してください。

粉じんの多い作業では、防じんマスクを着用してください。

耳せん、耳覆い(イヤーマフ)などの防音用保護具を着用してください。

5. 作業に適した服装をしてください。

だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないでください。

長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

6. 無理な姿勢で作業をしないでください。

常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

7. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

電動工具を使用する場合は、取扱方法・作業の仕方・周りの状況など十分に注意して慎重に作業してください。

回転物には手や身体を近づけないでください。巻き込まれたり、けがをする恐れがあり危険です。

可動部分や接続部分などに、手や足を挟まないように注意してください。

疲れている場合は、使用しないでください。

▲ 警 告

8. 感電に注意してください。

電動工具を使用中、身体をアースされているものに接触させないようにしてください。
必ず労働安全規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電遮断装置の設置された電源を使用してください。
本製品は作業者を感電事故より守るために、二重絶縁構造を施してありますが、より安全を期するために、必ずゴム長靴・ゴム手袋を着用してください。

9. ケーブルを乱暴に扱わないでください。

ケーブルを持って電動工具を運ばないでください。
ケーブルを引張って電源から抜かないでください。
ケーブルを熱・油・角のとがった所に近づけないでください。

10. 指定の付属品やオプション品を使用してください。

本取扱説明書および当社カタログに記載されている付属品や、オプション品以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがありますので使用しないでください。

11. 損傷した部品がないか点検してください。

使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないかしっかりと点検し、正常に作動し、所定の機能を発揮するか確認してください。
可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす、すべての箇所に異常がないか確認してください。
損傷・故障した部品の交換や修理は、取扱説明書の指示にしたがってください。
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所に修理を依頼してください。
スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所で修理を行ってください。

12. 次の場合は電動工具のスイッチを切り、プラグを電源から抜いてください。

使用しない、または、修理する場合。
刃物などの付属品を交換する場合。
その他危険が予想される場合。

13. 調整キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。

電源を入れる前に、点検・調節に用いたキーやレンチなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

14. 電動工具は注意深く手入れをしてください。

付属品の交換は、取扱説明書にしたがってください。
握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
ケーブルは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所に修理を依頼してください。
延長ケーブルを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。

▲ 警 告

15. きちんと保管してください。

乾燥した場所で、お子様の手のとどかない安全な所または、錠のかかる所に保管してください。

16. 不意な始動は避けてください。

電源につないだ状態で運ばないでください。

プラグを電源に差込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。

17. 屋外使用に合った延長ケーブルを使用してください。

屋外で使用する場合、3芯キャブタイヤコードまたは、3芯キャブタイヤケーブルの延長ケーブルを使用してください。

18. 作業に合った電動工具を使用してください。

小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行う作業には使用しないでください。

19. 電動工具の修理は専門店に依頼してください。

本製品は、該当する安全規格に適合していますので改造しないでください。

修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。

修理は、必ずお買い求めの販売店または、コンセック各営業所にお申し付けください。

【2】コアドリルの使用上のご注意

▲ 警 告

1. 必ず接地(アース)してください。

故障や漏電の時、感電する原因となりますので、アース付プラグを電源コンセントに合わせて接地(アース)してください。

接地と共に感電防止用漏電遮断器の設置された電源を使用してください。

漏電遮断器や接地については、次の法規がありますので、ご参照ください。

労働安全衛生規則 第333条・第334条

電気設備の技術基準 第18条・第28条・第41条

2. 電線管・ガス管・水道管などの埋設物に注意してください。

電気が流れている電線や電線管などに接触すると感電する恐れがあります。

壁・床などに穴あけを行う場合は、埋設物のチェックをしっかりと行ってください。

3. 石綿(アスベスト)は人体に有害です。このような成分を含んだ材料に穴あけをする時は、関係法令にしたがって防じん対策をしてください。

4. 湿式コアピットで作業する場合は、ゴム手袋・ゴム長靴は必ず着用してください。

湿式コアピットで穴あけをする時は、水を使用しますので、作業中は必ずゴム手袋・ゴム長靴を着用してください。

▲ 警 告

5. 湿式コアピットで天井面への作業はしないでください。

湿式での穴あけは水を使用するため、天井面への穴あけはモータ内部に水が入り、非常に危険です。

6. 高所での作業は、関係法令にしたがって作業してください。

安全な足場を確保して、足場より1.5m以上での作業はしないでください。

高所での作業の場合は、十分にスペースのあるしっかりした足場を確保してください。

高所での作業の場合は、施工場所の下に人を入れないようにしてください。

7. 貫通側の安全面に注意してください。

貫通穴あけ時に切削コアがコアピット内から抜け落ちたり、切削水が漏れたりすることがありますので、人や物にあたらないように、防護対策や処理方法を確実に行い、作業を始めてください。

8. つなぎケーブルを使用する時は、アース線を備えた3芯延長ケーブルを使用してください。

アース線のない2芯延長ケーブルですと、感電の原因となります。

9. 使用電源は銘板に表示してある電源を使用してください。

表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因となります。

10. 湿式コアピットで穴あけをする時は、水の飛散防止対策を行ってください。

作業中に水が飛散すると、モータ内部に水が入る恐れがあり、非常に危険です。

11. ポールベースはしっかり固定してください。

正しく固定することは非常に重要です。固定がきちんと行われていないと、穴あけ中にガタ付いたり、かみこむなどで、コアドリルおよびコアピットが損傷する恐れがあります。

12. 回転中のコアピット・メインシャフトには絶対に触れないでください。

回転中のコアピットやメインシャフトには、手や身体を近づけないでください。巻き込まれたり、けがをする恐れがあり危険です。

13. モータの風穴をふさいだり、風穴に物を入れないでください。

14. 異常時にはただちにスイッチを切ってください。

穴あけ中にコアピットが止まったり、異音を発した時は、ただちにスイッチを切ってください。

15. 突起物のあるコアピットは、使用しないでください。

回転物に突起物があると、巻き込まれたりけがをする危険性があります。

16. 最大コアピット呼径を超えるコアピットは、使用しないでください。

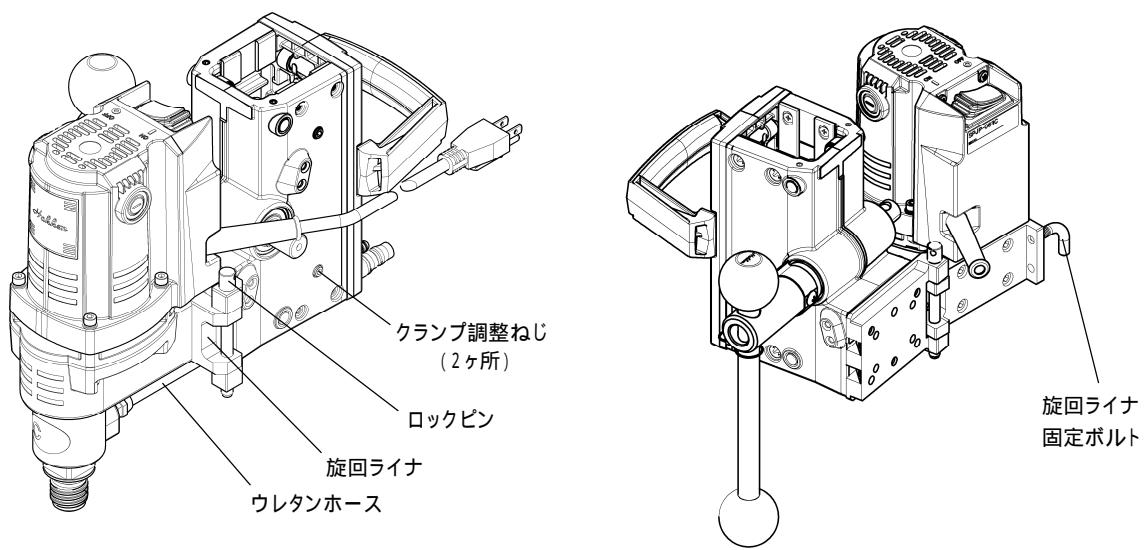
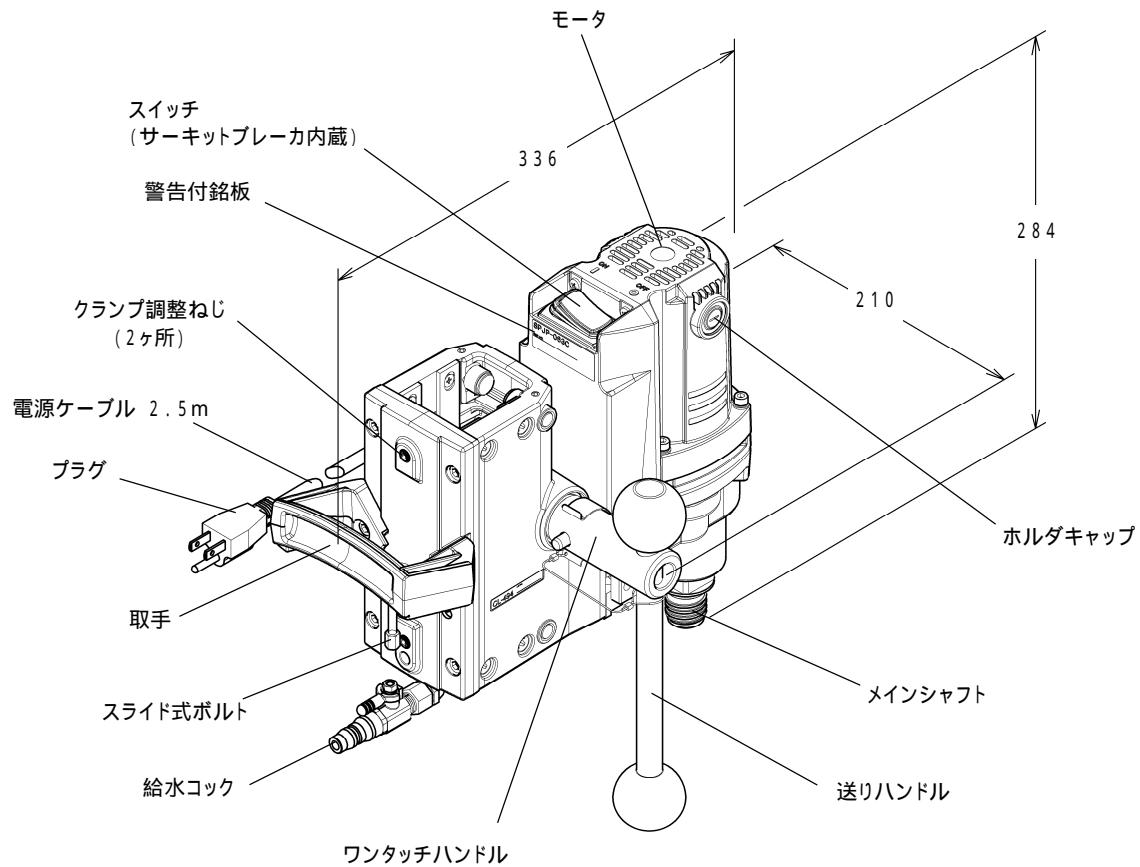
⚠ 注意

1. 無理して使用しないでください。
安全に能率よく作業するために、機器の能力に合った仕様で作業してください。
2. コアピットの取扱説明書をよく読み、指示にしたがって正しく使用してください。
3. 湿式コアピットで穴あけをする時は必ず給水を行ってください。
湿式コアピットは加熱すると、寿命が短くなり穴あけ能率も低下しますので、必ず給水を行ってください。
清水以外の水を使用すると、コアドリルの故障の原因となります。必ず清水を使用してください。
4. 運搬時や穴あけ作業時は、旋回ライナを固定してください。
5. コアピットが穴あけ面に接した状態で、モータを回転させないでください。
コアピットやコアドリルの破損の原因となります。
6. 穴あけ作業は回転が上がってから行ってください。
穴あけ作業はスイッチを入れ、コアピットの回転が完全に上がってから行ってください。
7. 穴あけ途中で送りハンドルに無理な力をかけ、コアピットの回転を止めたり、コアピットをロックさせたりしないでください。
コアピットのチップの破損や、コアドリルの破損の恐れがあります。
8. 送りハンドルから手を離す時は、必ずスライド式ボルトを締めてドリルヘッドを固定してください。
9. スライド式ボルトをゆるめる時は、必ず送りハンドルを持ち、ドリルヘッドが動かないように行ってください。
10. 電源が離れていて、延長ケーブルが必要な時は、本製品を最高の性能で支障なくご使用していくために、十分な太さのケーブルをできるだけ短くお使いください。

使用できる延長ケーブルの太さ(公称断面積)と最大長さの目安

公称断面積	電線の最大長さ
1 . 2 5 mm ² × 3 芯	1 0 m
2 . 0 mm ² × 3 芯	2 0 m
3 . 5 mm ² × 3 芯	3 0 m
5 . 5 mm ² × 3 芯	5 0 m

2. 各部の名称

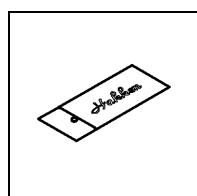


【旋回ライナを開いた状態】

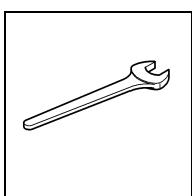
3. 仕様(ドリルヘッド)

型式名	S P J P - 0 6 3 C
モータ	単相直巻整流子モータ
使用電源	単相交流 50 / 60 Hz 電圧 100 V
定格電流	14 A
消費電力	1330 W
最大出力	1500 W
無負荷回転速度	950 min ⁻¹
標準コアピット呼径	14.5 ~ 61 mm
最大コアピット呼径	160 mm
コアピット取付けねじ	Cロッドねじ
質量(ケーブルを除く)	7.4 kg

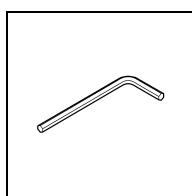
4. 標準付属品



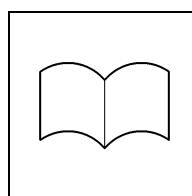
工具袋
…1ヶ



片口スパナ
27・32 mm
…各1ヶ



六角棒レンチ
4 mm
…1ヶ

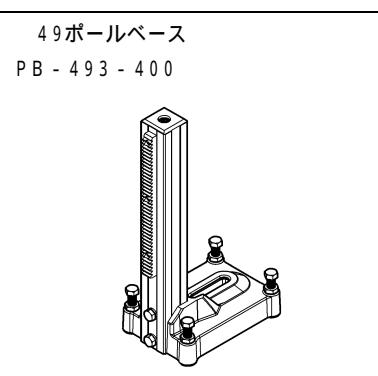


取扱説明書
…1ヶ

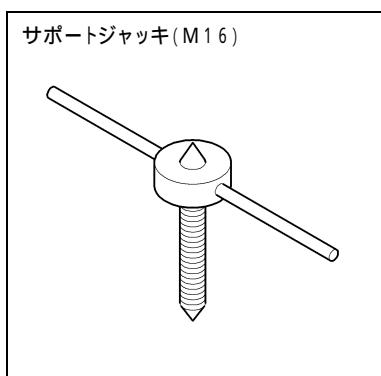
5. 用途

施工スペースに制限のある、コンクリートへの穴あけ工事。

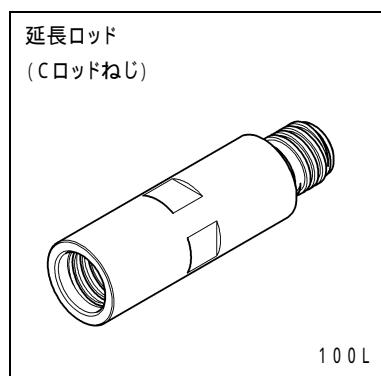
6. オプション品(別売)



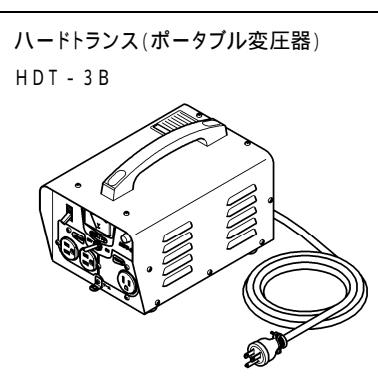
ポールの寸法が 49で全高400mmの狭隘部専用のポールベースです。



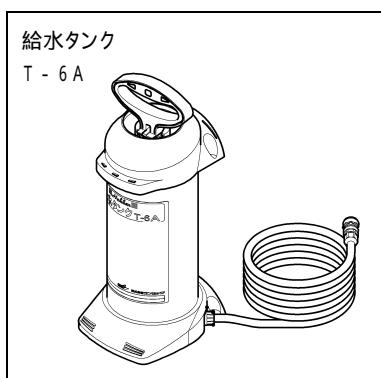
アンカーを施さずに、ジャッキ固定する時に使用します。



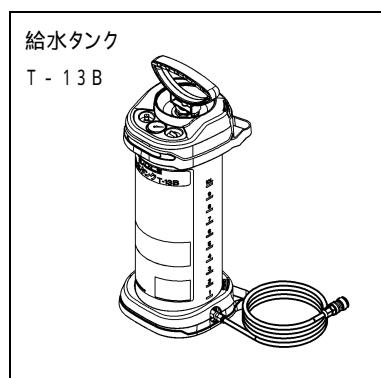
深穴をあける時に使用します。呼び径32以下には使用できません。



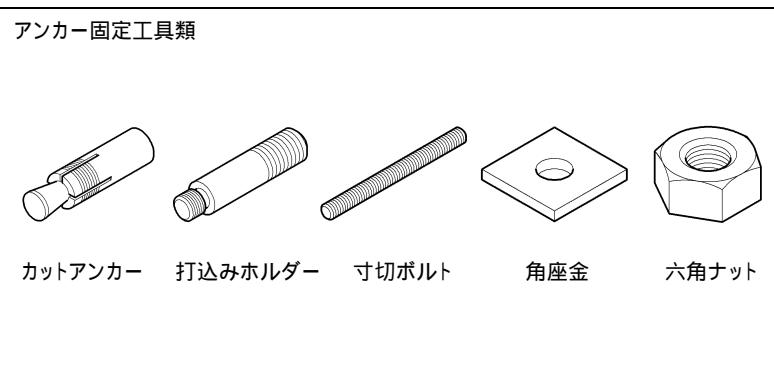
電源電圧が低下している時や、200V電源を100V・115V・120Vに変更したい時に使用します。



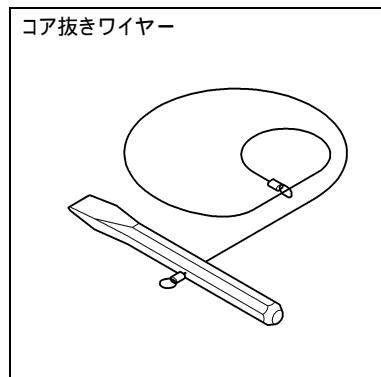
タンク容量は6.9リットルと軽量で、小型機種の穴あけに最適な樹脂製給水タンクです。



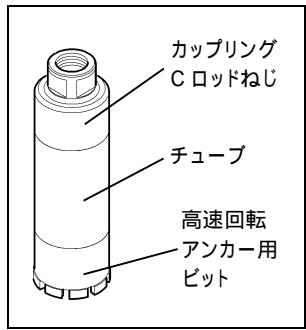
給水の不便な場所で使用します。タンク容量は13リットルで、空気圧により高所へも注水できます。



コンクリートなどに施工して、ポールベースを固定します。



タガネで切削コアを折り、ワイヤーで切削コアを抜取ります。



呼径	穿孔穴径 [mm]	ピット 有効長 [mm]	短チューブ 有効長 [mm]	カップリング 有効長 [mm]	全長 [mm]		
20	20.2	50	100	15	200		
22	22.2	30			180		
24	24.2				185		
28.1(1")	28.1	35			184		
33.7(1 1/4")	33.7	29			189		
35.4	36.6				195		
38	38.7				200		
41.1(1 1/2")	41.1	35	30	205	205		
42	42.2						
45	45.2						
48	48.2						
61	61.0	40					

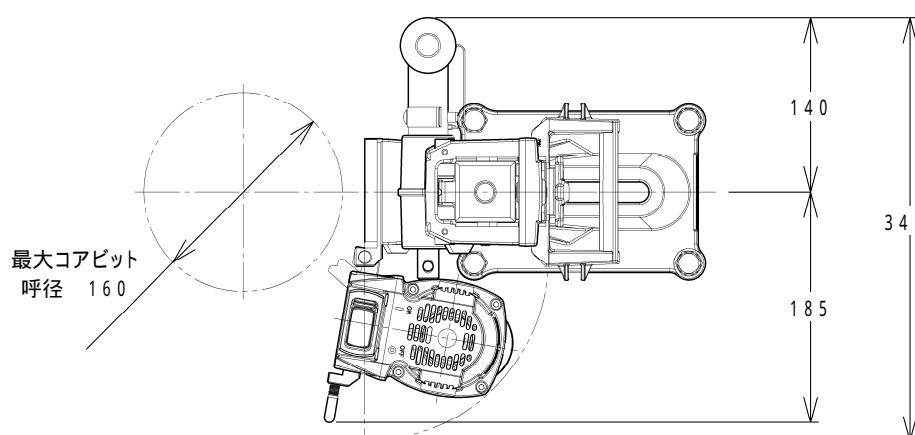
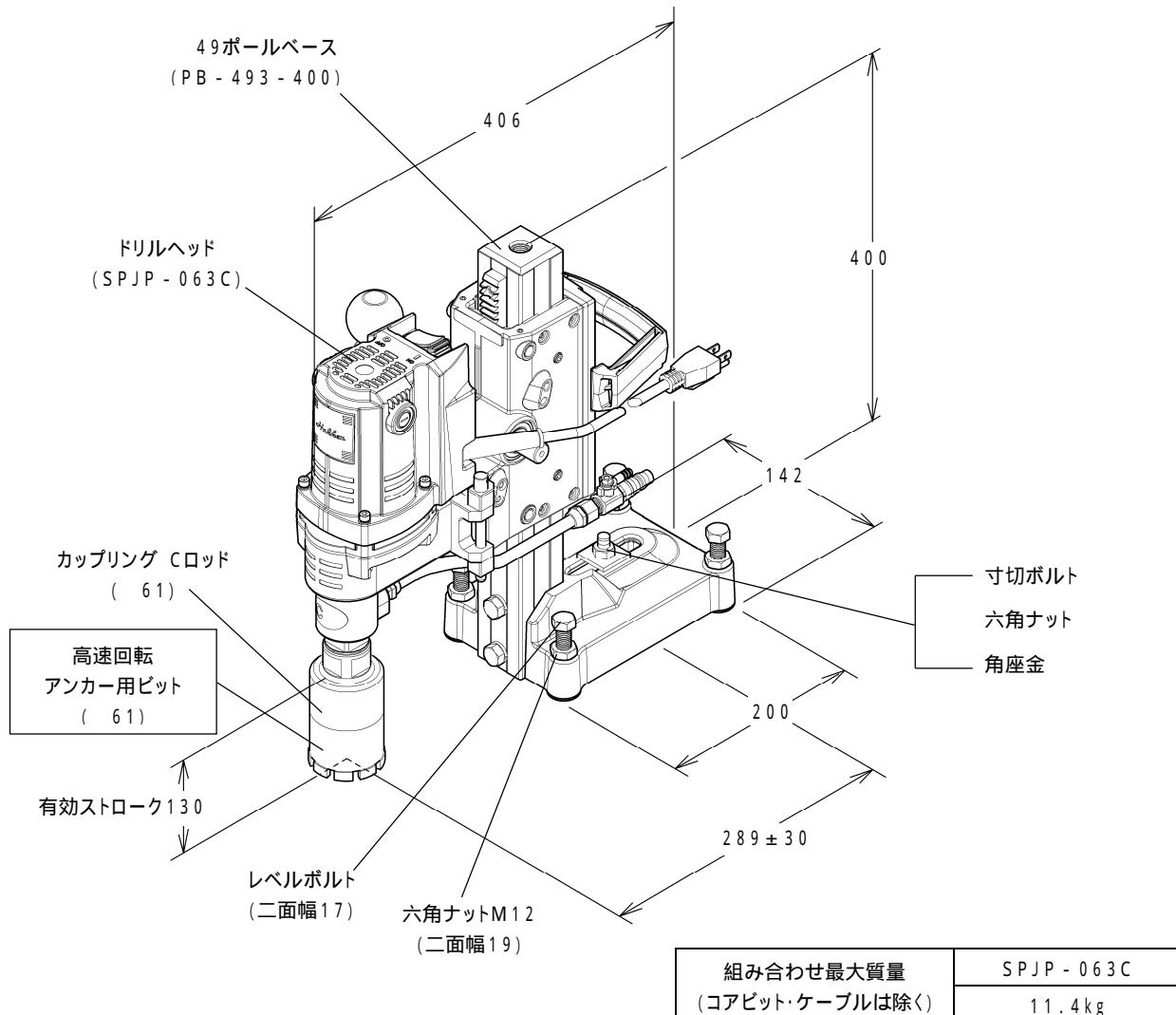
穴あけ深さの算出は、ピット・チューブ・カップリングの有効長を合計してください。

ピット有効長・全長は、ダイヤモンドチップの高さは含まれていません。

カップリングおよび短チューブは常備在庫していないサイズがあります。販売店または、コンセック各営業所にお問い合わせください。

7. 使用時全体図および仕様

49ポールベース PB - 493 - 400 のアンカーによる固定



【旋回ライナを開いた状態】

旋回ライナを組換えることで旋回方向の変更が可能です。

(20 頁の「10. 旋回ライナの組換え方法(開閉方向の変更)」を参照してください。)

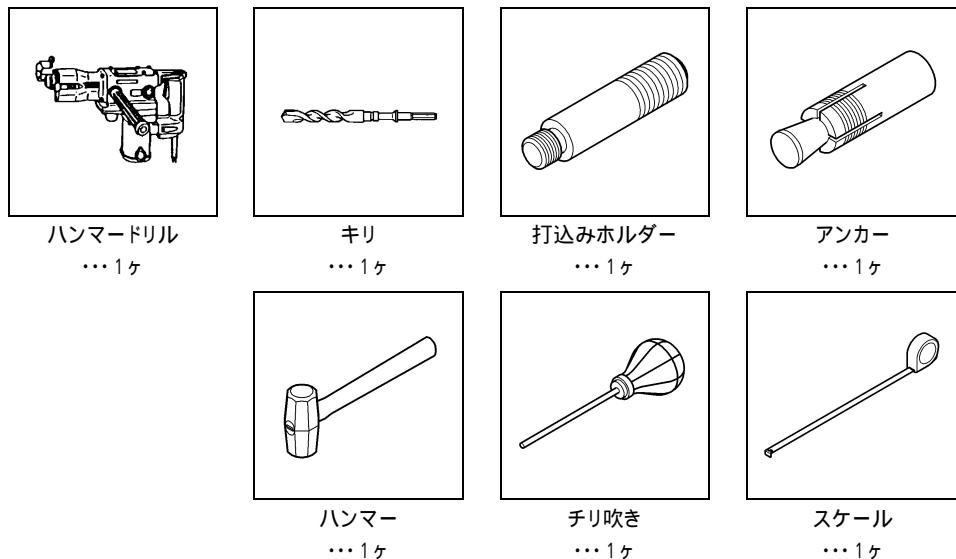
8. 使用方法

49ポールベース PB - 493 - 400のアンカーによる固定方法を例に説明します。

【1】アンカー施工

使用するハンマードリルの取扱説明書にしたがい作業してください。

準備するもの



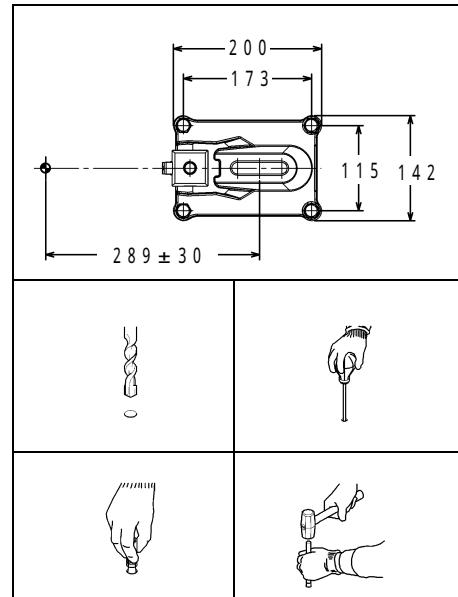
穴あけ位置から289(±30)mmの位置にハンマードリルで下穴をあけてください。

アンカー	W3 / 8	W1 / 2
キリサイズ	14.5 mm	18 mm
削孔深さ	55 mm	65 mm

チリ吹きで穴の中の切り粉を排除してください。

アンカーを穴の中に挿入してください。

打込みホルダーをしっかりと保持して、ハンマーで打込んでください。

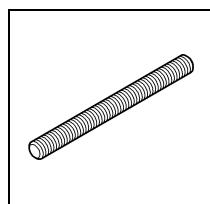


▲ 警告

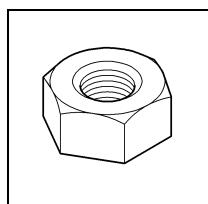
1. 下穴の中の切り粉は、完全に排除してください。切り粉が残っていると、アンカーが抜けやすくなり大変危険です。
2. 打込み不足はアンカーが抜けやすくなり大変危険です。
3. アンカーは当社指定のカットアンカーを使用してください。

【2】コアドリルの設置

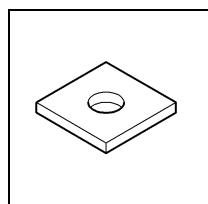
準備するもの



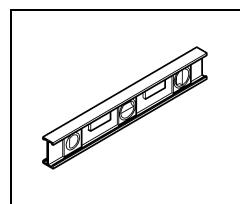
寸切ボルト
…1ヶ



六角ナット
…1ヶ



角座金
…1ヶ



水準器
…1ヶ

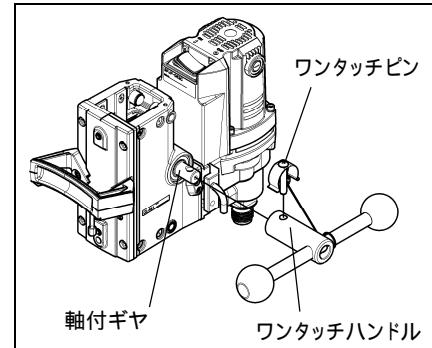
- 1) ワンタッチハンドルからワンタッチピンを引抜いてクランプ部の軸付ギヤに送りハンドルを差込んでください。軸付ギヤとワンタッチハンドルの穴の位置を合わせてワンタッチピンを差込んで取付けてください。

△ 注意

旋回ライナを固定してから作業を行ってください。

ポイント

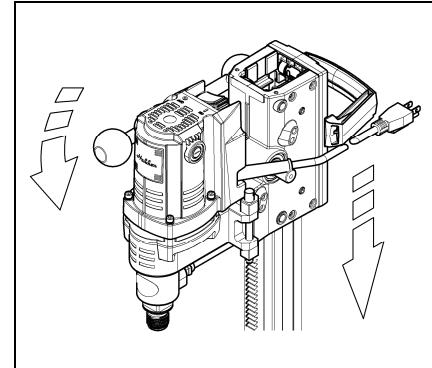
ワンタッチハンドルは、軸付ギヤの左右どちらでも取付け可能です。



- 2) スライド式ボルトをゆるめて、ドリルヘッドをポールに差込んでください。

△ 注意

1. 軸付ギヤのピニオンギヤが、ポールベースのラックにあたるまでゆっくりと差込み、送りハンドルをまわして、ギヤを完全にかみあわせてください。ピニオンギヤやラックに衝撃を加えると、ギヤが破損することがあります。
2. ドリルヘッドを落とさないように注意してください。



ポイント

ご使用前に必ずクランプ調整を行ってください。(本書[定期点検]を参照)

- 3) コアドリルを設置し、寸切ボルトをアンカーにねじ込み、スパナなどで六角ナットを締付けて仮固定してください。

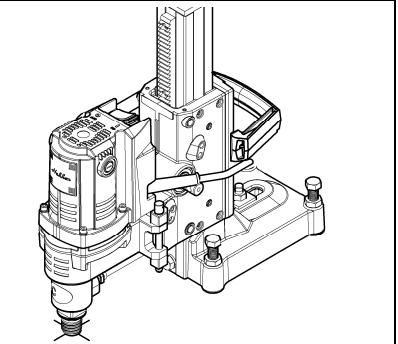
▲ 警 告

1. 寸切ボルトは5山以上ねじ込んでください。ねじ込めない場合は、ねじ部に傷などがありますので、寸切ボルトを交換するか、アンカーの打ちなおしを行ってください。
2. コアドリルが倒れないように、しっかりと支えて作業してください。

- 4) 送りハンドルをまわしてメインシャフト先端が穴あけ面にあたるまでドリルヘッドを移動させ、スライド式ボルトを締めてドリルヘッドを固定してください。

⚠ 注意

送りハンドルから手を離す時は、必ずスライド式ボルトを締めてドリルヘッドを固定してください。



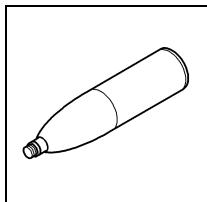
- 5) スパナなどで六角ナットをゆるめ、ポールベースを移動させて、メインシャフトと穴あけ位置を合わせてください。
- 6) ポールベースがガタ付かないようにレベルボルトでレベル調整を行い、調整後はスパナなどで六角ナットを締付け、ポールベースをしっかり固定してください。鉛直・水平の調整は、ポールに水準器などをあてて行ってください。

⚠ 注意

ポールベースがガタ付く場合は、再度レベル調整を行ってください。

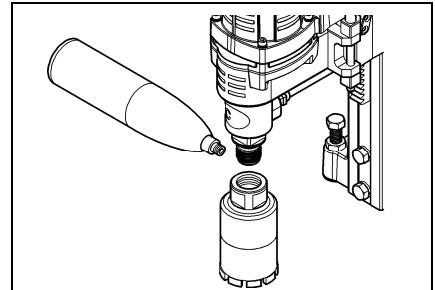
【3】コアピットの取付け

準備するもの



グリース
…1ヶ

- 1) スライド式ボルトをゆるめてドリルヘッドをコアピットが取り付く位置まで送りハンドルで移動させ、スライド式ボルトを締めてドリルヘッドを固定してください。
- 2) メインシャフトねじ部にグリースを少量塗布し、コアピットをねじ部の根元までねじ込んでください。



⚠ 警告

コアピットの取付け・取りはずしは、必ず電源ケーブルのプラグを電源から抜いて行ってください。

⚠ 注意

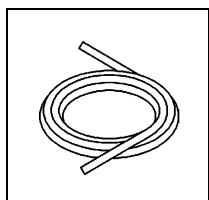
1. コアピットを取扱う時はゴム手袋を着用し、けがのないように注意してください。
2. コアピットが落下しないよう、注意して行ってください。

ポイント

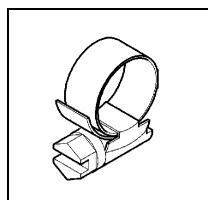
コアピットをメインシャフトに取付ける時にグリースを塗布することにより、作業後の取りはずしが容易になります。

【4】給水の準備

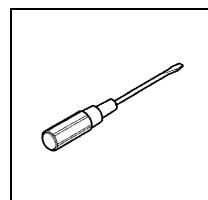
準備するもの



ホース
…1ヶ



ホースバンド
…1ヶ



ドライバー
…1ヶ

給水コックを閉じ、給水用カブラーまたは、給水用ホースを接続してください。給水用ホースの場合は、ホースバンドで締付けてください。

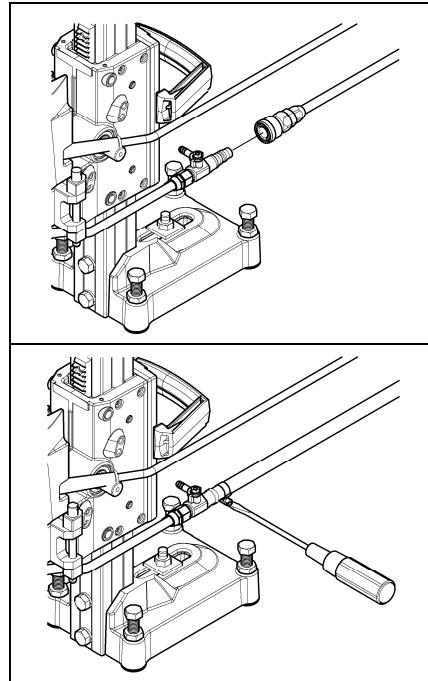
給水コックに取付け可能なホースの内径は15mmです。

⚠ 注意

1. コアドリルの破損の原因となりますので、給水は必ず清水を使用してください。
2. 穴あけ作業中に給水が止まらないようにしてください。

ポイント

給水コックにはハイカプラソケット20SM(日東工器)やジョプラWナットタイプTN-6.5WR(ジョプラックス)等などのハイカプラ仕様のソケットが取付け可能です。



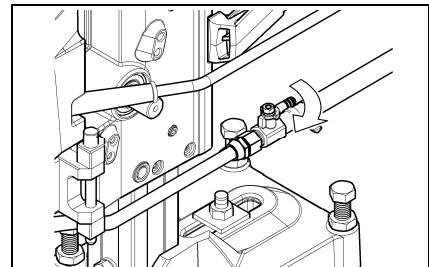
【5】穴あけ作業

1) スイッチが切れていることを確認して、プラグを電源に差込んでください。

2) 水道の蛇口をあけ、給水コックを徐々に開き、給水量を調整してください。

⚠ 注意

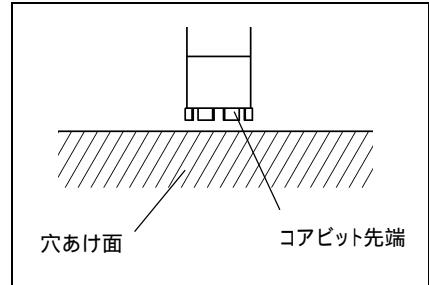
1分間に2リットル程度、給水してください。



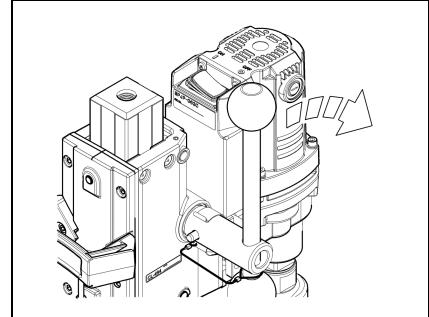
3) スライド式ボルトをゆるめて、送りハンドルでコアピット先端が、穴あけ面から少し離れる位置にしてください。

⚠ 注意

コアピットが穴あけ面に接した状態でコアドリルを始動させると、コアピットやコアドリルの破損の恐れがあり危険です。



4) スイッチを入れ、切込みを行ってください。送りハンドルでコアピットが穴あけ面に軽くあたるまで、ドリルヘッドをゆっくり移動させてください。はじめは、5~10mmの深さまで軽く切込み、その後は一定の力で切込んでください。



⚠ 警 告

1. 音や振動などに異常のある場合は、ただちにスイッチを切ってください。
2. コアピット回転中は、モータ部の風穴をふさいだり、風穴に物を入れないでください。また回転部分に触れないでください。
3. 送りハンドルを急にまわすと、コアピットが穴あけ面に強くあたり、コアピット・コアドリルの破損および事故などの恐れがあり危険です。

⚠ 注意

1. 送りハンドルに無理な力をかけると、コアピットの摩耗増加・穴あけ能率の低下を招きます。
2. 旋回ライナを固定してから、切込みを行ってください。

ポイント

サーキットブレーカが作動し、スイッチが切れた時は、いったん送りハンドルでコアピットを穴から抜出し、スイッチを入れなおすしてください。

- 5) 所定の深さまで切込んだら、給水を止め、送りハンドルでコアピットが穴から出るまでドリルヘッドを移動させ、スライド式ボルトを締めて、ドリルヘッドを固定してください。

⚠ 注意

1. 給水を止めたら、すぐにコアピットを穴あけ面から出してください。
2. コアピット内に残った水が飛散しないように注意してください。

- 6) スイッチを切って、プラグを電源から抜いてください。

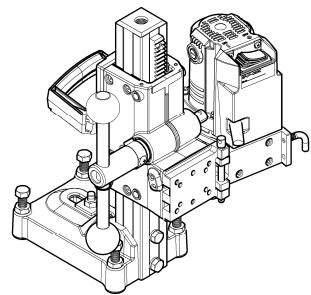
⚠ 警告

1. プラグを電源から抜く時は、ケーブルを引張らないでください。
2. ぬれた手や手袋で、プラグ・電源に触れないでください。感電する恐れがあり危険です。

- 7) チューブを継ぎ足す場合や、コア抜きを行う場合は、旋回ライナ固定ボルトをゆるめ、旋回ライナを開いて行ってください。

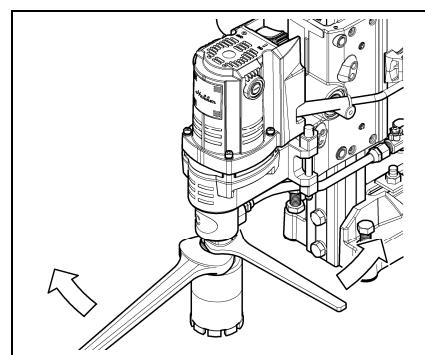
⚠ 注意

1. 旋回ライナを閉じる時に手を挟まないように注意してください。
2. 旋回ライナを開いたら、旋回ライナ固定ボルトを締付けて、旋回ライナを固定してください。



【6】穴あけ作業終了

- 1) スライド式ボルトをゆるめ、ドリルヘッドをポールの上端付近にくるよう送りハンドルで移動させ、スライド式ボルトを締めて、ドリルヘッドを固定してください。
- 2) 給水用のホースをはずし、片口スパナを使用して、メインシャフトからコアピットを取りはずしてください。
- 3) 六角ナットをスパナなどでゆるめ、寸切ボルトを取りはずし、コアドリルを取りはずしてください。
- 4) 各部に付着しているノロや水気を取除いてください。



⚠ 警告

- コアドリルが倒れないように、しっかりと支えて作業してください。

ポイント

- コアピットを取りはずした後、ねじ部にグリースを塗布しておくと、錆付き防止になります。

9. 作業中のトラブルと対策

【1】作業中のトラブルと対策方法

作業中に異常を感じたら、ただちに作業を中止して安全な状態で、下表にて原因の調査を行ってください。

トラブル	原因	対策方法
コアピットの回転が止まった	コアピットがロックした	「コアピットがロックした」の項を参照
	ギヤボックス部の故障	修理
	モータが停止した	「モータが停止した」の項を参照
コアピットがロックした	鉄片または切り粉などが、切削コアとコアピットの間に挟まっている	本書「コアピットがロックした場合の解決方法例」を参照
	セリが発生した	「セリが発生した」の項を参照
モータが停止した	スイッチの保護機能が作動した	「スイッチの保護機能が作動した」の項を参照
	カーボンブラシの異常	本書「定期点検」を参照
	モータ部の異常	修理
振動が大きい	切削コアが折れている	切削コアをコアピットから取出す
	ドリルヘッドのクランプ調整不良	本書「定期点検」を参照
	ポールベースのアンカー固定不良	再固定
	旋回ライナの固定不良	再固定
	ポールベースのレベル調整不良	再調整
	メインシャフトの芯ブレ	修理
	コアピットの芯ブレ	新品交換
電源ブレーカが作動した	電源容量が小さい	電源容量を大きくするまたは、切込み力を弱くする
	故障	修理
スイッチの保護機能が作動した	切込み力が強すぎる	切込み力を弱くする
	モータ / スイッチの故障	修理
	振動で作動することがある	「振動が大きい」の項を参照
切れ味が悪い	鉄筋を切削している	-
	給水量が多い	給水量を少なくする
	電源容量が小さい	電源容量を大きくする
	コアピットの目づまり	お買い求めの販売店または、コンセック各営業所に相談
	コアピットが摩耗している	新品交換
	セリが発生した	「セリが発生した」の項を参照
セリが発生した 本書「コアピットにセリが生じた場合の解決方法例」を参照	切り始めに強く切込みすぎた	-
	切込み力が強すぎる	切込み力を弱くする
	給水量が少ない	給水量を多くする
	振動が大きい	「振動が大きい」の項を参照
	ポールベースが曲がっている	修理
	コアピットが摩耗し、切削溝が細くなっている	新品交換

* セリ… コアピットのボディー側面がコンクリート面に接し、回転の障害となること。

【2】コアピットがロックした場合の解決方法例

▲ 警 告

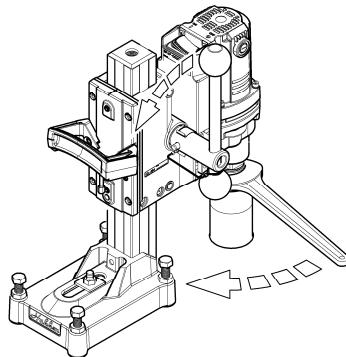
万一の事故を防止するために、スイッチを切って、プラグを電源から抜いてから行ってください。

片口スパナでコアピットをゆっくりまわし、コアピットが抜ける位置を探しながら、送りハンドルでドリルヘッドを少しずつ引抜き方向に移動させ、穴あけ面より抜いてください。

△ 注意

送りハンドルに無理に力をかけると、

1. コアドリルの故障・破損
 2. コアピットのチップの脱落
- が起こる恐れがあります。

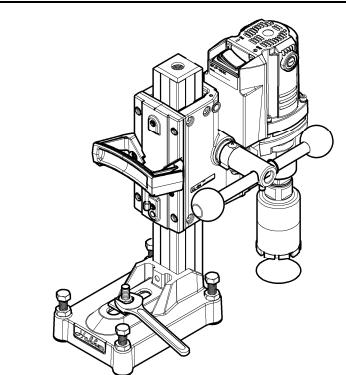


【3】コアピットにセリが生じた場合の解決方法例

▲ 警 告

万一の事故を防止するために、スイッチを切って、プラグを電源から抜いてから行ってください。

- 1) ポールベースの固定をゆるめ、セリの少ない位置に微調整し固定してください。
- 2) セリの部分を取除くため、コアピットを回転させ、穴の口元よりゆっくりと切込んでください。
- 3) 1)、2)を繰返し行ってもセリが解消されない場合は、穴あけ位置を変更するか、大きいサイズの穴あけを行ってください。



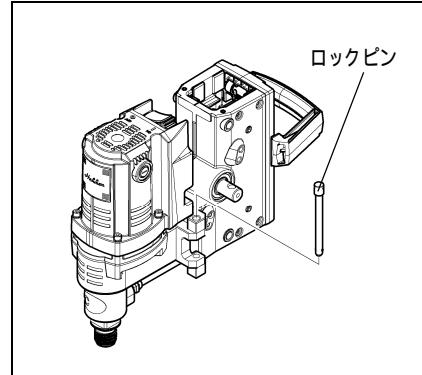
10. 旋回ライナの組換え方法（開閉方向の変更）

旋回ライナを組換えることで、開閉方向の変更が可能です。

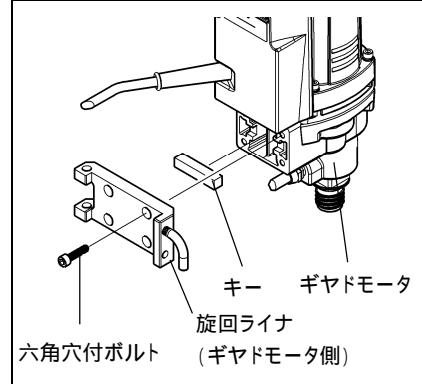
△ 注意

1. 旋回ライナを取付ける時は、必ずキーを取付けて下さい。キーを取付けないと穴あけ時に、コアピットにセリが発生する恐れがあります。
2. キーを組込む時は、ガタ付きがないことを確認してください。
3. 旋回ライナとの合わせ面にすきまができたり、傾いたりしないよう注意してください。

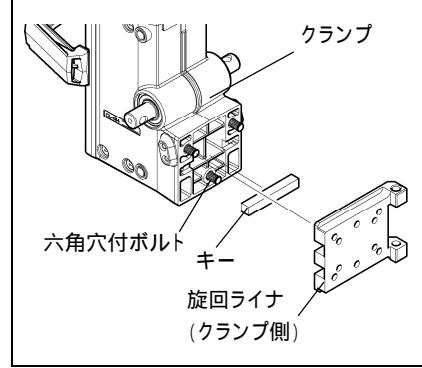
- 1) ワンタッチピンを引抜いて、送りハンドルを取りはずします。
旋回ライナ固定ボルトをゆるめて、ロックピンを引抜いてください。



- 2) (ギヤドモータ側) 旋回ライナを固定している六角穴付ボルト(4本)を、六角棒レンチ5mmでゆるめて、旋回ライナを取りはずしてください。旋回ライナを180°回転させ、キーに合わせて取付けてください。六角穴付ボルト(4本)を六角棒レンチ5mmで締付けて固定してください。(推奨締付トルク10N·m)



- 3) (クランプ側) 旋回ライナを固定している六角穴付ボルト(3本)を、六角棒レンチ6mm(ロングタイプ)でゆるめて、旋回ライナを取りはずしてください。旋回ライナを180°回転させ、キーに合わせて取付けてください。六角穴付ボルト(3本)を棒レンチ6mmで締付けて固定してください。(推奨締付トルク36.3N·m)

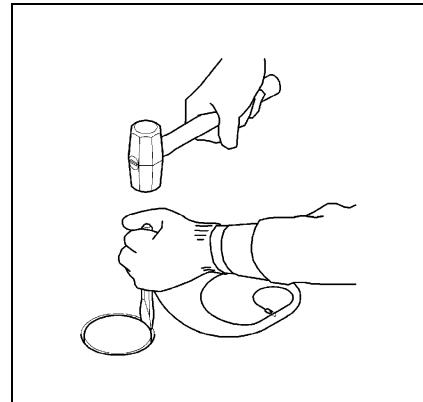


- 4) ロックピンを差込み、旋回ライナを連結させ、旋回ライナ固定ボルトで固定してください。送りハンドルは、旋回方向とは反対側に取付けてください。

11. コア抜きワイヤーの使用方法

切削コアの抜取り方法の一つとして、コア抜きワイヤーによる方法があります。

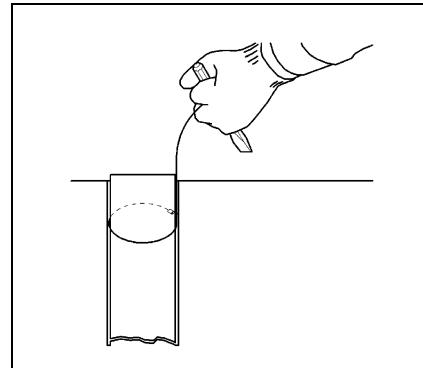
- 1) 切削溝にコア抜きワイヤーのタガネ部分を差込み、ハンマーでたたいて切削コアを折ってください。



- 2) 切削コアが穴の中でぐらつくようになりましたら、コア抜きワイヤーのワイヤー部分を輪にして、切削コアにかけてください。

ポイント

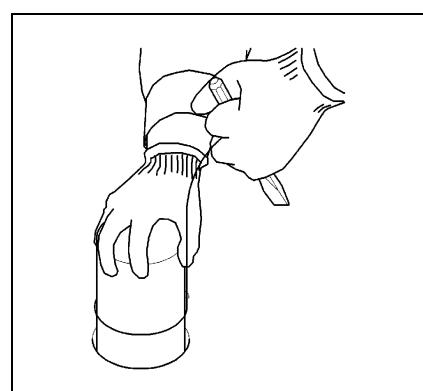
ワイヤーをできるだけ切削コアの奥にかけると、切削コアが抜きやすくなります。



- 3) コア抜きワイヤーをゆっくりと引上げて切削コアを抜いてゆき、切削コアを持てるようになりましたら、切削コアを持って抜いてください。

▲ 警告

1. コア抜きワイヤーで、切削コアを高く吊り上げないでください。
2. コア抜きワイヤーは、コア抜き以外には使用しないでください。



12. 点検・保守・修理

▲ 警告

点検・保守の際は必ずプラグを電源から抜いてから作業を行ってください。プラグを電源につないだまま保守等を行うと、感電や事故の原因となります。

【1】作業前点検

ドリルヘッド・ポールベース・コアピットに、亀裂・破損はないか、またケーブル被覆部・プラグに、亀裂・損傷はないか点検してください。異常があった場合、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所にお問い合わせください。

【2】定期点検

1. 各部取付ねじの点検

各部取付ねじのゆるみなどを定期的に点検し、ゆるんでいる所は締めなおしてください。

▲ 注意

ゆるんだまま使用すると、事故などの原因となり大変危険です。

2. カーボンブラシの点検・交換

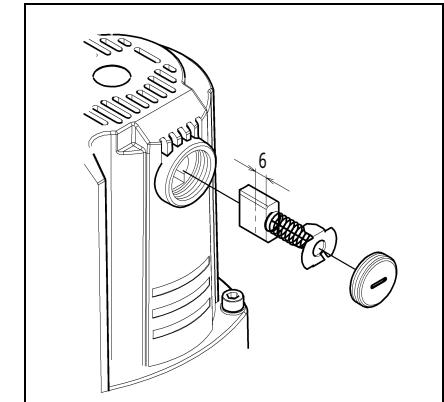
1) 点検方法

ホルダキャップをマイナスドライバーなどではずし、カーボンブラシを取出してください。点検後は、ホルダキャップをしっかりと締付けてください。

2) 点検項目

カーボンブラシの摩耗が大きくなると、モータ故障の原因となりますので、定期的に点検し、長さが摩耗限界線(6mm)くらいになりましたら、新品と交換してください。

カーボンブラシはきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしておいてください。

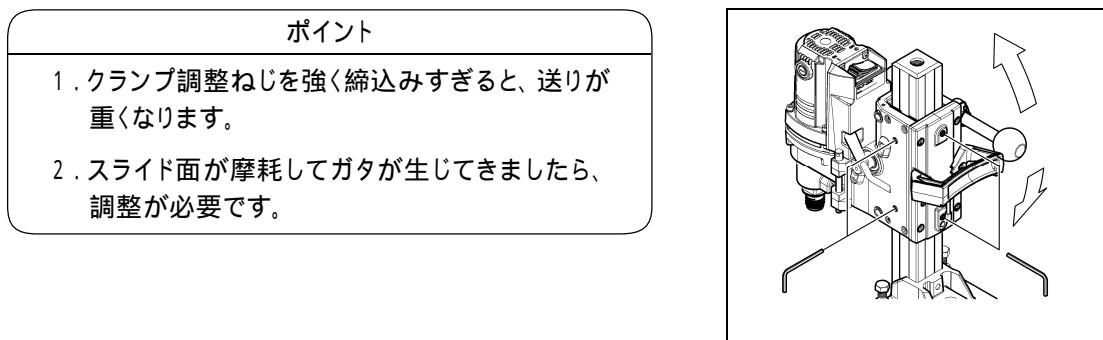


▲ 注意

当社指定のカーボンブラシを使用してください。

3. クランプ調整部分の点検・調整

送りハンドルを動かしながら、六角棒レンチ(4mm)でクランプ部の4ヶ所のクランプ調整ねじをバランスよく締込んでゆき、ポールとクランプとのすきま調整を行ってください。締込みの目安としては、側はガタ付きがなくなる所まで締込み、側はガタ付きがなくなる所まで締込んだ後、1/4回転戻す程度(床面取付け時に、ドリルヘッドが自重で下がらない程度)です。



4. グリースの交換について

本製品にはグリースが封入されています。本製品を長持ちさせるために、1年ごとにグリースの交換をお勧めします。その際に、廃棄処理等の問題もありますので、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所にお問い合わせください。

【3】保 守

1) 作業後は、表面の清掃を行ってください。

ドリルヘッドの外枠は、ギヤケース部がアルミ製で、モータ部が強靭な合成樹脂製です。モータ部外枠に、ガソリン・シンナー・石油・灯油類を付着させると、表面を痛めます。モータ部外枠の清掃の時は、乾いた布か石鹼水を付けた布などで拭いてください。

2) モータ部の保守

使用後は、ドリルヘッドをポールベースに固定して、モータを無負荷運転させ、内部に風を送り、内部のゴミ・ほこりなどを排出してください。

【4】修理について

本製品は、厳密な精度で製造されています。したがって、もし正常に作動しなくなった場合には、決してご自分で修理をしないで、お買い求めの販売店または、コンセック各営業所にお問い合わせください。

その他、取扱い上でご不明な点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

13. 製品の保管

製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

お子様の手がとどいたり、簡単に持ち出せる場所

鍵のかからない場所

軒先など雨がかかるたり、湿気のある場所

温度が急変する場所

直射日光のあたる場所

引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所には保管しないでください。

本取扱説明書に記載されている製品の外観などの一部を予告なく変更している場合があります。

メモ

本製品に関するお問い合わせは、下記アドレスにアクセスしていただき、
最寄りの支店または営業所へ直接ご連絡ください。

<https://www.consec.co.jp/company/office/>

右の QR コードをバーコードリーダー機能付きの携帯電話より読み取ることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。



株式会社コンセック

〒 733-0833 広島市西区商工センター4-6-8

型式名	S P J P - 0 6 3 C	検印
製造番号		

E2910-5